

## 子どもの福祉と社会の責任に気づかされた学び

介護福祉士 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野 修士一年 張鑫

今回安發先生の授業を通じて、フランスと日本の子どもの福祉制度の違いを知り、多くの学びがありました。どの国においても「子供が幸せに育てばより良い社会になる」のが当然のことですが、フランスのように子供の問題を社会全体の課題として捉える姿勢があることに、まるで目が覚めるような思いで気づかされました。

私は中国で育ったため、このような子供福祉に関する問題についてこれまで深く考えたことがありませんでした。中国でも家庭が子供の成長において中心的な役割を果たし、親の責任、特に母親の責任が非常に重視されます。自分に対して、子供を育てるために自分の生活がなくなり、全ての時間を子供の世話にしなければならないと思い込んでいます。

フランスのように、親だけに全てを任せるのではなく、地域社会や制度が子どもの成長を積極的にサポートする姿勢は、親が過剰な負担を抱え込む必要がなくなり、安心して子育てに向き合えます。親自身が幸福で安定した生活を送ることは、子供の成長にとっても重要な要素であり、この点を社会全体で支援することが非常に重要です。

また、「福祉はコストではない、社会問題の解決を目指す投資である」という視点は、多くの国が共有すべき理念だと感じました。子供の幸福度を高めることは、結果的に社会全体の幸福度向上につながるという考え方に共感します。

今回の授業の学びを通じて、子供たちが安心して成長できる環境を整えることは、社会全体の未来を明るくする大切な基盤であると感じました。私はまだ知識も経験も十分ではなく、学ぶべきことがたくさんあると痛感しています。

大熊先生、授業ありがとうございました。